

平成29年度修士課程（一般選抜・春期試験）問題 目次

専門試験		ページ
文化動態論	共生文明論	2～4
	アート・メディア論	5～6
	文学環境論	7～9
	言語生態論	—

平成29（2017）年度
大阪大学大学院文学研究科（修士課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化動態論専攻 共生文明論コース 筆記試験

[問題用紙は、この紙をふくめて3枚あります。]

(注意事項)

- 添付されている問題は、問1、問2、問3である。3題すべてに解答すること。
- 解答は、日本語で解答用紙に記入すること。
- 解答用紙には、解答する問題番号などを、それぞれの解答の冒頭に記入すること。
- 中辞典程度の英語辞書の持込可。ただし、電子辞書は不可。

問1 次の(a)～(e)から1つを選んで解答しなさい。なお、選んだ項目のアルファベットを明記すること。

- (a) ジェノサイドという概念について、具体的な事例を踏まえて説明しなさい。
- (b) 「文化とは他者をつくりだすための基本的なツールである」(“Culture is the essential tool for making other.”, Lila Abu-Lughod) とは、どういう意味なのか、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- (c) 前近代日本の神仏観について、時期区分を示しつつ説明しなさい。
- (d) ポストモダンの経済的生産体制の特徴について、説明しなさい。
- (e) アジアから任意の地域を選び、そこにおける宗教と近代国民国家の形成との関係について、歴史的に述べなさい。

問2 次の(a)～(f)から2つを選んで解説しなさい。なお、選んだ項目のアルファベットを明記すること。

- (a) 地縁
- (b) 『太平記』
- (c) 十七世紀の危機
- (d) 懐徳堂
- (e) 条件不利地域
- (f) 李鴻章

問3 次の文章を読んで、以下の問い（問ア・問イ）に答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は下に示すとおりです。

引用箇所は、“Neighborhoods of Chinese settlement in Western societies” から、“an idiosyncratic oriental community amidst an occidental urban environment”まで、下線部は、“A recent history of Toronto's Chinatown,”から、“as a Chinese architectural form.” までです。

— Kay J. Anderson (1987) “The Idea of Chinatown: The Power of Place and Institutional Practice in the Making of a Racial Category”. *Annals of the Association of American Geographers*, 77(4), pp.580-598 より一部抜粋・改変。

問ア. 上の英文の下線部を日本語へ訳しなさい。

問イ. 北米のChinatown において近年みられる具体的な景観の変化について述べなさい。

平成 29 (2017) 年度
大阪大学大学院文学研究科 (修士課程/一般選抜・春期試験) 入学者選抜試験問題
文化動態論専攻 アート・メディア論コース 筆記試験

[問題用紙が 1 枚、別紙が 1 枚あります]

問 1 次に挙げる 8 つの用語もしくは固有名詞のなかから自由に 5 つを選び、それぞれを 5 行程度で説明しなさい。

- (1) ユニヴァーサル・スペース(universal space) (2) 舞台車
(3) ジャン＝ピエール・メルヴィル (Jean-Pierre Melville) (4) カメラ視線
(5) ロバート・ウィルソン(Robert Wilson) (6) 万国博覧会
(7) ヴェネツィア・ビエンナーレ(Biennale di Venezia) (8) 立原道造

問 2 次に挙げる 4 つの設問 A～D の内から自由に 2 つを選び、解答しなさい。

A. ドイツの退廃芸術政策がドイツ国内外に及ぼした影響について詳述しなさい。

B. 別紙の二枚の写真 (①京都・中京郵便局、②東京・三菱一号館美術館) は、それぞれ「ファサード保存」、「復元」という、歴史的建造物の活用に対する異なるアプローチの代表例である。これをもとに、以下の二つの問いに答えよ。

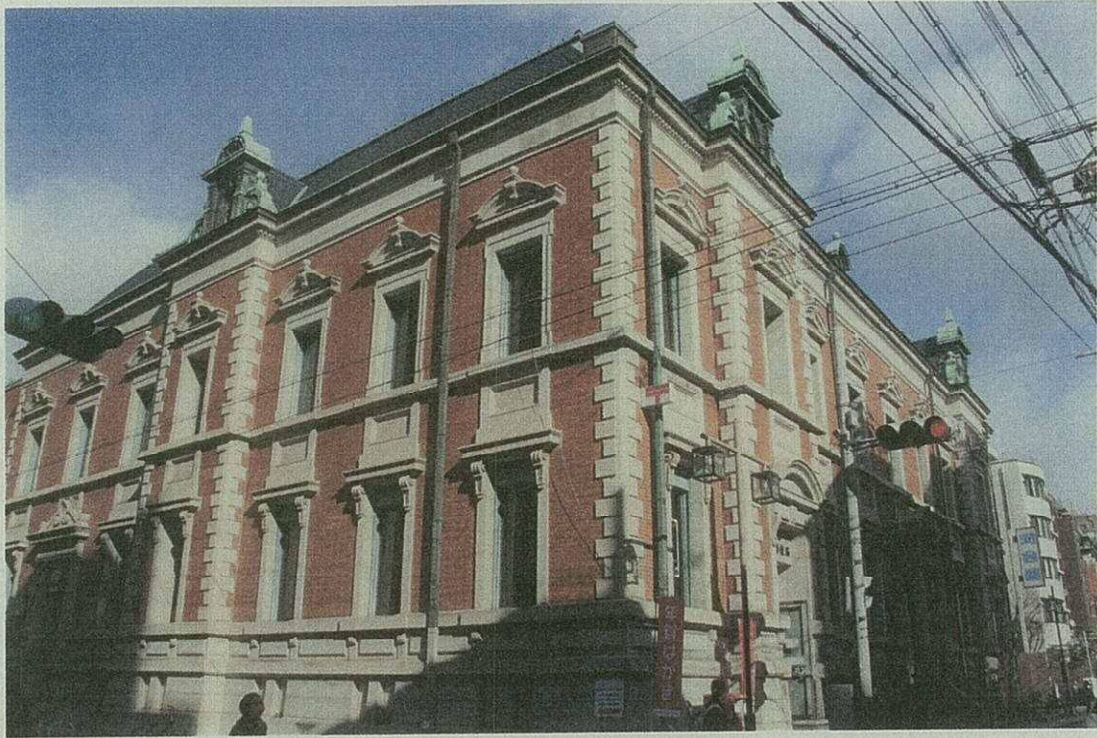
1 : 両者の手法の特徴を分析し、長所と短所を比較検討せよ。

2 : 「1」での考察をふまえながら、現代日本の都市における観光資源としての歴史的建造物の活用について、あなたの提言をまとめなさい。

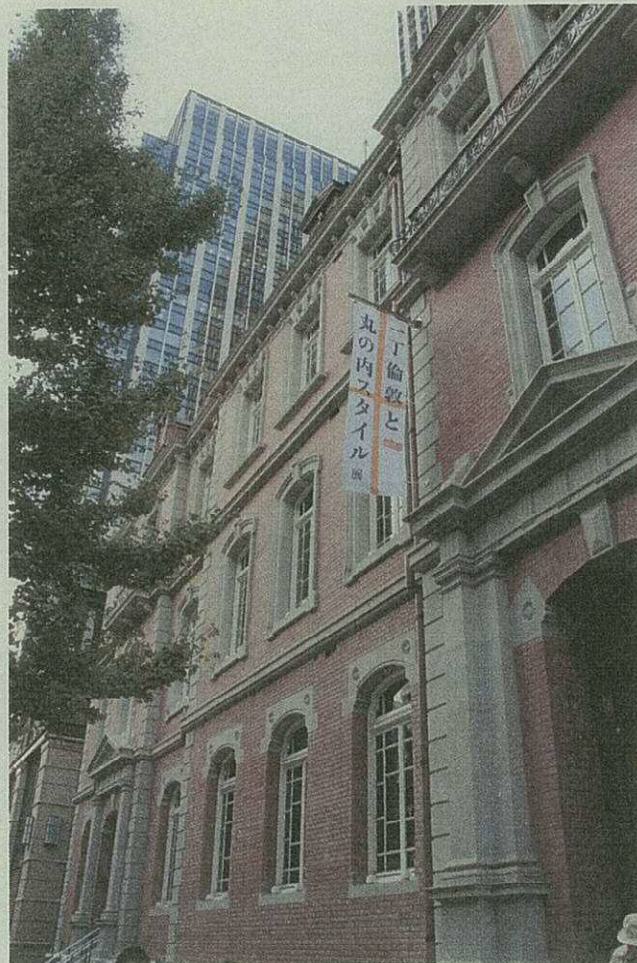
C. 伝統的な宗教的儀式 (結婚式、葬式など) や教育機関における各種催事 (入学式、卒業式、学位授与式など) の演劇的要素について、具体的に一つ取り上げてそれがどのような意味で演劇的なのかを説明し、また関係する人々や組織、社会にとってどのような機能を有しているのかを解説しなさい。

D. フィクション、ドキュメンタリーを問わず、映画一般を見るさいの観客の姿勢や心理的メカニズムを、「同一化」(identification) の概念に即してわかりやすく説明しなさい。

一般選抜・筆記試験【別紙】



① 京都・中京郵便局



② 東京・三菱一号館美術館

平成29(2017)年度
大阪大学大学院文学研究科(修士課程/一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題
文化動態論専攻 文学環境論コース 筆記試験

[問題用紙は3枚あります。]

I. 次の英文を読み、後の問いに答えなさい。

【問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。】

出典：Eспен Aarseth, "Narrative Literature in the Turing Universe" (Franco Moretti, ed., *The Novel: Forms and Themes*, Volume 2, Princeton UP, 2006, p. 839, l. 1 - p. 840, l. 13)

(イ) 括弧「 」内を日本語に訳しなさい。

(ロ) 下線部の問い "What are the consequences of an infinite text?" に対するあなた自身の答えを示しながら、書かれたナラティブとしての小説の「終わり」「結末」について論じなさい。

II. 次の文章は、雑誌『番紅花』の創刊号（一九一四年三月）に森鷗外が寄せた「サフラン」と題するエッセイの一部です。

この雑誌は屋竹一枝、神近市子ら『青嶺』にかかわったフェミニストたちによって刊行されたものです。このエッセイを読んで、後の設問に答えなさい。

二三年前であった。汽車で上野に着いて、人力車を借つて回子坂へ帰る途中、真照宮の石壇の下から、薄暗い花園町に掛かる時、道端に鋸を敷いて、球根からすぐに葉の花の咲いた草を列べて売っているのを見た。子供から半老人になるまでの間にサフランに対する知識は余り進んではいなかったが、図譜も生の花の形だけは知っていたので、「おや、サフランだな」と思った。花卉として東京でいつ頃から弄ばれているか知らない。とにかくサフランを売る人があると云うことだけ、この時始知つた。

この旅はとく往つた旅であつたか知らぬが、朝旅宿を立てたのは霜の朝であつた。もう温室の外にはあらゆる花と云う花がなくなつてゐる頃の事である。山茶花も菜の花もない頃の事である。

サフランにも種類が多いと云うことは、これもいつや何かで読んだが、私の見たサフランはひとく早く咲く花である。しかし、細端は相接触する。ひとく早く咲く花だとも云われる。水仙よりも、ヒヤシントよりも早く咲く花だとも云われる。

去年の十二月であつた。白山下の花屋の店に、一銭の正札附でサフランの花が三、四十、千からびた球根から咲き出たのが列べてあつた。私は散歩の足を駐めて、球根を二つ買って持つて帰つた。サフランを珍物としたのはこの時である。私は店の爺さんに問うて見た。

「爺さん、これは土に活けて置いたら、又花が咲くぢやうか。」

「ええ、好く殖える奴で、来年は十位になりませぬ。」

「そうかい。」

私は買って帰つて、土鉢に少しばかり庭の土を入れて、それを埋めて書斎に置いた。

花は三日で萎れた。鉢の上には袂屑のような室内の塵が一面に被さつた。私は久しく目にも留めずにいた。

すると今年の一月になつてから、緑の糸のような葉が葉がこつて出た。水も遣らずに置いたのに、活気に満ちた青々とした葉が葉がこつて出た。物の生ずる力は驚くべきものである。あらゆる抗拒に打ち勝つて生じ、伸びる。定めて花屋の爺さんの云つた通りに、段々球根も殖えなると云つた。

硝子戸の外には、霜雪を凌いで福寿草の黄いろい花が咲いた。ヒヤシントや貝母も花壇の土を裂いて葉を出しはじめた。書斎の内にはサフランの鉢が相変わらず青々としてゐる。

鉢の上は袂屑のような塵に掩われているが、その青々とした色を見れば、無情な主人も折々水位遣らずにはいられない。これは目を瞑りしめようとする Egoismus であらうか。それとも私なしに外物を愛する Altruismus であらうか。人間のする事の動機は縦横に交錯して伸びるサフランの葉の如く容易には自分にも分からない。それを讀んで、烟脂を舐めた蛙が腸をさらばたして洗つように洗ひ立てをして見たくもない。今私がこの鉢に水を掛けるように、物に手を出

せば弥次郎と云う。手を引き込みておれば、独善と云う。殘酷と云う。冷澆と云う。それは人の口である。人の口を
顧みていると、一本の手の遺跡もなくなる。

これはサツラと云う章と私の歴史である。これを讀んだら、いかに私のサツラに就いて知っていることが貧弱だか
分かるだろう。しかしこれ程陸連な物にもまたま行儀の神が触れるように、サツラと私の間にも接点がない
ことはない。物語のモデルは只それだけである。

宇宙の間で、これまでサツラはサツラの生存をしいた。私は私の生存をしいた。これからがサツラはサツラの
生存をして行くであろう。私は私の生存をして行くであろう。(尾竹一枝君のために)

(イ) 前後の文脈に留意して、傍線部(イ)～(ロ)の意味を説明しなさい。

(ロ) 文意に即しながら、『蕃紅花』に対する鷗外の立場・態度について考察しなさい。

問題文は『新潮日本文学1 森鷗外集』(新潮社、1971年)を底本とする青空文庫版に拠り作成した。